

『豊太郎が意識の無い時に、相沢がエリスに伝えた』
というストーリーについて

私は始めて舞姫を読んだ時、豊太郎の性格をよく理解することができなかった。相沢や大臣、母、エリス等の登場人物に接する時の彼は、どういった気持ちを持っているのかなどが少し分りにくい印象を持った。そして、このストーリーでは主な登場人物三人(豊太郎、エリス、相沢)が直接的に関わっていて、そこには三人のさまざまな思いがあったと思われた。私はこのストーリーを豊太郎の視点に立って考えてみようと思った。このストーリーは彼にとって良かったのか、悪かったのかなど…そう考えていく過程の中で彼の性格をよく理解できるとしてこのテーマに決めた。これまでの彼の経験や正確をふまえて考えた結果、豊太郎にとってこのストーリーは悪かったのだという結論に達した。

まずこのストーリーの中で相沢がエリスに伝えた内容は、

『豊太郎が相沢にエリスとは別れる、と言った事』

『豊太郎が大臣に、同行することを承諾したこと』

以上の二点である。前者について、彼が相沢に言われるがままにエリスとの別れを承諾したのは、相沢が豊太郎にとっての学生時代からの友人で過去に職業を紹介してくれた恩のある人物だからである。彼は昔からの性分として、自分が信じて心頼みにする人からの突然の問いかけには、その答えの重大さを推測せずにはすぐ承諾の返事をしてしまう、と本文にある。つまり彼は承諾した際には、咄嗟の判断であった為に重大さに気づいていなかったと考えられる。後になってその事を、相沢が大臣に伝えたのではないかと危惧する場面より、彼の中で承諾したことへの後悔が有ったと思われる。後者についても同様で、大臣に対して恩は厚く咄嗟に承諾するも、後になって事の重大さに気がついて身動きがとられない状況になった。

そして、エリスに伝えるということについて彼はひたすら悩んでいた。また、精神的にも肉体的にも疲れ果てるまでに思いをめぐらせていた。それは豊太郎からのエリスへの愛がとても深いものだったからといえる。決して豊太郎は、エリスが「裏切られた」と感じるような気持ちは持っていなかった。しかし豊太郎の意識がないときに起こったばかりに、すぐにエリスに弁解するすべもなかった。また、エリスのその後の精神的ショックがあまりに大きいのでまともに会話も出来ず、後になっても豊太郎は自分自身が感じていた思いをエリスに伝えることが出来なかった。結果的に、エリスにとって豊太郎は「裏切り者」であり、下のように愛し合うことが出来なくなってしまったので、彼にとってこのストーリーは悪かったと考えた。

豊太郎にとって、このストーリーは悪かったと考えたが、相沢やエリスの視点に立ったときとでは、当然見解が違ってくる。今回私は豊太郎の性格について理解できたが、相沢は何の為にこの行動をとったのか、など二人についての性格、気持ちについては疑問が残った。このストーリーは本文中で唯一三人が直接的に関わりあう場面なので、それぞれの視点に立って考えることで登場人物の人物像について深く考えられるストーリーだと思った。